

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：24506
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2013～2016
 課題番号：25380751
 研究課題名（和文）外国人介護福祉士国家試験対策用日英バイリンガル版eラーニング教材の試作とその評価

 研究課題名（英文）Assessing Bilingual e-Learning Materials for EPA-Certified Care Worker Candidates: Strategies to Improve National Examination Pass Rates.

 研究代表者
 末弘 美樹（SUEHIRO, Miki）

 兵庫県立大学・経済学部・教授

 研究者番号：50389095
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：経済連携協定に基づく外国人介護福祉士候補者の受け入れ開始後、複雑かつ深刻な問題が噴出している。そのひとつが、国家試験合格率の伸び悩みである。受入れ施設は、多くの時間と資金を投入し、その育成に努めてきた。しかし結果は6割が国家試験に不合格であった。本研究では、受入れ施設の投資（時間や資金などの経済的損失）が最小限で済むように、入国前から取り組みが可能となるICT国家試験対策プログラムの開発、トライアルの実施、そして学習効果の評価を行った。その結果、介入語として英語を使用したICT教材を利用することにより、効率的な学習効果が期待できることを確認できた。

研究成果の概要（英文）：In addressing the rapidly aging societies, in 2008 Japan established an Economic Partnership Agreement (EPA) with Indonesia to recruit skilled care workers. However, it is evident that the candidate's pass rate was low. This is arguably due to the fact that the examination was in Japanese. Candidates had no choice but to take the national examination in Japanese in the same way as Japanese nationals. This pilot study aims at providing an alternative solution to increase the number of successful candidates. It examines whether a hybrid teaching method using English as an intervention language (one of the language of instructions) and internet-based learning can be an effective study strategy. Results show that combining English as an intervention language and internet-based learning is effective in raising certified care workers' national examination pass rates in Japan.

研究分野：言語文化教育学、e-Learning教育、社会学（異文化接触とアイデンティティの変容）

キーワード：外国人介護福祉士候補者 経済連携協定（EPA） 英語の役割 e-Learning型学習 情報通信技術（ICT）
 ） インドネシア 自律学習支援 介護福祉士国家試験

1. 研究開始当初の背景

日本は少子高齢化の時代を迎え、労働力の減少は避けられない状況となってきた。医療や介護の現場においては、特に切実な問題であり、中でも介護福祉士の不足は深刻な事態に陥っている。高齢者の比率が急増しているため、介護福祉士の需要がますます増加している。その一方で介護福祉士については、慢性的な人手不足が顕在化している。厚生労働省によれば、この介護福祉士不足は地域による格差の問題ではなく全国的な問題であり、もはや潜在介護福祉士に頼ることも期待できない。供給側から見て国内の介護職員確保は非常に難しい状況にあると言わざるを得ない。このような人口統計上のジレンマ (the demographic dilemma) の残された解消方法が、海外からの労働力の受け入れである。2006 年日本政府は日比経済連携協定に基づき、日本政府は介護福祉士候補者の受け入れに署名した。EPA を活用した外国人介護福祉士候補者 (以下 EPA 介護福祉士候補者) の受け入れと国家資格取得後の継続就労および在留許可は、今回が初めての事例となる。

日本での就労を受け入れるためには、現在次のような条件が EPA 介護福祉士候補者に付加されている。協定に基づき入国する EPA 介護福祉士候補者は、受け入れ施設で就労しながら国家試験の合格を目指した研修を受ける。具体的に言えば、フィリピンやインドネシアの場合、訪日前後に 6 ヶ月間の日本語と介護の研修を受け、そのあと介護関連施設で就労を行いながら、国家試験合格を目指す。つまり外国人介護福祉士候補者にとって滞在上限 4 年で、介護福祉士の国家試験に合格しなければならず、不合格者は帰国することになる (一定の条件を満たす候補者に対しては 1 年間の滞在期間の延長が認められている。また不合格のために帰国した場合でも、再受験の目的での来日も可能になっている。厚生労働省 (2015) 『経済連携協定 (EPA) に基づくイ

ンドネシア人及びフィリピン人看護師・介護福祉士候補者の滞在期間の延長について』)。日本政府のみならず受け入れ施設にとっても、労働報酬を支払い、国家試験合格を目標とした適切な研修を実施することが要求されているため、合格しなかった場合はかなりの「経済的損失」(2008 年度の渡航費や研修費などの関連経費予算は 19 億)となる。この予想は、奇しくも的中し、2012 年度の初の受験となった介護福祉士国家試験の合格率は、37.9% (受験者数 95 人・合格者数 36 人)であった。同年度の看護師試験で同じ EPA に基づく受験者の合格率が 11% だったのに比べると、大幅に高く思われるが、介護福祉士を目指す外国人受験者の 6 割は不合格という結果であった。受け入れ当初に比べれば、合格率は年々上がってはきているが、質の高い介護を被介護者に提供するどころか、そもそもスタート地点にも立てていないのが現状である。受け入れ施設への聞き込み調査により、国際交流基金が提供する 6 ヶ月間の日本語研修では、EPA 介護福祉士候補者の日本語習得レベルも、あいさつ程度でしかなく、国家試験の取組みどころではないということがわかった。そのため EPA が定める語学研修期間や受け入れ候補者の日本語能力が問題視され始めた。外国人就労者が、4 年の滞在期間中に、日本語や異文化理解、これに加えて専門的知識までもを学習し、国家試験に合格するという計画には、幾多の障壁があり、中途挫折にも繋がりやすい。実際、あと一歩で合格というところで、帰国するケースも多い。また、日本の受け入れ施設から採用の通知をもらっていても、つたない日本語で生活し、国家試験の低い合格率を知ると、辞退するケースもある。このように逼迫した状況にもかかわらず、充実した研修を実施するための教材やプログラムが決定的に不足しているのが現状である。候補者側も思った以上の労力とストレスを抱えている。そのため、二国間の経

済活動の連携を強化する観点から、国家試験合格という目標達成をさせるための効率的且つ効果的なプログラムの構築が必須である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、受け入れ開始後、外国人介護福祉士候補者が貴重な戦力として即座に協働できるように、また受入れ施設の投資(時間と資金など)が最小限で済むように、1) 入国前から取り組みが可能となる英語版 ICT 国家試験対策教材を試作すること、2) その試作した教材を使ってトライアルを実施すること、そして3) その試作した教材の学習効果を評価することである。特に英語を介入語として使用することによる学習効果を検証する。

3. 研究の方法

1) 大阪大学サイバーメディアセンターマルチメディア言語教育研究部門が開発した教育支援システム WebOCMnext を利用して、コンテンツを作成した。

2) トライアルの実施は、2013 年および 2015 年に現地調査協力校 2 校に在籍する看護学生(合計 129 名)を対象に行われた。トライアルで扱った内容は、介護福祉士国家試験問題の過去問題第 24 回と第 25 回である。それぞれ英語とインドネシア語に翻訳したものをを使って試行した。

3) e-Learning 形式の学習に対する意見については、アンケート調査を行った。また、英語を介入語として利用することによる学習効果については、インドネシアからの EPA 介護士候補者の第 24 回国家試験結果と比較するために統計的仮説検定を使って検証を行った。

4. 研究成果

1) 作成した教材は次である。
http://www23.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/WebOCMnext_HT/ou/demo/Login.aspx

本教材は、英語専門分野と福祉専門分野の研究者の共同により教材内容が作られるため、学際的な角度から学習教材内容を豊富に提供できると同時に、医療知識や専門用語などをより確実かつ効率的に学習させるために英語を介入言語として利用している点に特徴がある。フィリピンでは英語は公用語であるが、英語を外国語とするインドネシアでも、医学部や看護学部では英語で書かれた書籍が教科書として使われていることが現地調査からわかっている。介護福祉士国家試験では、病名などは英語併記されていることもあり、英語の介入により、一層効率的に学習させることができるとの期待が持てる。他にもさまざま特徴を備えているが、それら詳細については論文や学会発表資料等に掲載しているため参照していただきたい。

2) トライアルの内容については、2013 年に AsiaTEFL 国際学会でおよび 2015 年にインドネシアで開催したシンポジウムで、それぞれ発表した。また、「EPA 介護福祉士候補者のための国家試験対策用日英バイリンガル版 e-Learning 教材の試作とその取り組み」(『地域ケアリング』北隆館 Vol.18, No.6) に詳しく紹介している。

3) e-Learning 形式の本教材に関するアンケート調査を行った結果は、好評(「今後、利用したい」と回答した学生が 901 名中 799 名(88.7%))であった。また「介護福祉士候補者として来日することを前提とした場合、インドネシアにいる間に事前に e-Learning 教材を使って学習できるとすれば、何を学習したいか」という質問に対して、国家試験の過去問題、国家試験の練習問題、日本語、日本の文化/社会の 4 項目が上位を占めた。これらの教材コンテンツの拡充が今後の課題である。

そして 2015 年 3 月に英語に翻訳した国家試験(第 24 回)を卒業間近の看護学生 30 名に

受験させた結果、「人間の尊厳と自立」の正解率だけが悪いということが分かった。そして「生活支援技術」および「障害の理解」の正解率が際立って高いことが、インドネシア EPA 介護士候補者第 1 陣の受験結果と比較から明らかとなった。つまり英語に翻訳した国家試験で受験させると、彼らが十分に医療知識を持ち合わせていることがわかった。同時にどこの領域の問題を苦手とするか明白となるため、効率的に学習させることができる。このように介入語として英語を利用することの利点を確認することができた。

但し、英語を介入語として利用して学習した場合とそうでない場合の習熟度の比較検証ができなかった。長期的なスパンでの検証が今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 11 件)

横山正子・西田実継(2014)「本学での介護過程の e-Learning 活用の教授法『Moodle』の授業、Web 実習記録システム、アセスメントツール『ケアサポート』」神戸女子大学健康科学部紀要 Vol.6, pp.47-58.

田中博一(2014)「介護人材確保対策検討会『中間整理メモ』より」北隆館「地域ケアリング」第 16 巻

田中博一(2015)「介護人材確保対策検討会『中間展望とグランドデザイン』」北隆館「地域ケアリング」第 17 巻

田中博一(2015)「Certified care workers in Japan: issues and prospects」兵庫大学論集 第 20 巻

田中博一(2015)「福祉の人材政策の行方」滋賀社会福祉研究 第 17 巻

田中博一(2015)「地域包括ケアと介護人材の課題と展望」『華頂社会福祉学』第

11 巻

田中博一(2015)「介護福祉士養成校の現状と展望」『地域ケアリング』北隆館 第 17 巻 13 号

Miki SUEHIRO(2016) "English for a Global Solution: a Case Study of Indonesia and Japan." The 62th TEFLIN International Conference 2015 Proceedings Book 4., pp.203-206.

末弘美樹(2016)「EPA 介護福祉士候補者のための国家試験対策用日英バイリンガル版 e-Learning 教材の試作とその取り組み」『地域ケアリング』北隆館 Vol.18, No.6, pp.77-83.

末弘美樹(2016)「EPA 介護福祉士候補者の送出し受入れ制度を持続可能かつ成功に導くための一考察 - 一連の研究方角から見えてきたこと」『地域ケアリング』北隆館 Vol.18, No.9, pp.72-77.

田中博一(2016)「介護専門職への途<(仮称)管理介護福祉士>構想」『地域ケアリング』北隆館 Vol.19, No.11, pp.19-24.

[学会発表](計 14 件)

Miki SUEHIRO(2013.10.26-28) "The Role of English in the Bilateral Free Trade Accord: Between Japan and Two Southeast Asian Nations - Indonesia and Philippines." Ateneo de Manila University (The Philippines)

横山正子(2013.10.19-20)「もう一つのインドネシア介護福祉士教育支援に関する考察」第 21 回日本介護福祉学大会、於・熊本学園大学

Miki SUEHIRO(2015. 3.11) "The Overview of the National Examination for Certified Care Workers under EPA and the Analysis of Examination Results of Indonesian Candidates (I)" International Symposium 2015,

Japanese Care System and Migrant Care Workers: Current Issues in EPA between Japan and Indonesia. Polytechnic Health Denpasar, Bali in Indonesia.

Miki SUEHIRO (2015.3.11)

“ Introduction to e-Learning Study Materials for Migrant care Candidates: WebOCMnext (I). ” International Symposium 2015, Japanese Care System and Migrant Care Workers: Current Issues in EPA between Japan and Indonesia. Polytechnic Health Denpasar, Bali in Indonesia.

Hirokaze TANAKA (2015.3.11)

“ Japanese Care System and Migrant Care Workers (I) ” International Symposium 2015, Japanese Care System and Migrant Care Workers: Current Issues in EPA between Japan and Indonesia. Polytechnic Health Denpasar, Bali in Indonesia.

Miki SUEHIRO (2015.3.11) “ The Overview of the National Examination for Certified Care Workers under EPA and the Analysis of Examination Results of Indonesian Candidates (II). ” Polytechnic of Health Denpasar, Bali, Indonesia. Institute of Health Sciences Bali.

Miki SUEHIRO (2015.3.11)

“ Introduction to e-Learning Study Materials for Migrant care Candidates: WebOCMnext (II). ” International Symposium 2015, Japanese Care System and Migrant Care Workers: Current Issues in EPA between Japan and Indonesia. Polytechnic Health Denpasar, Bali in Indonesia.

Hirokaze TANAKA (2015.3.11)

“ Japanese Care System and Migrant

Care Workers (II) ” International Symposium 2015, Japanese Care System and Migrant Care Workers: current issues in EPA between Japan and Indonesia. Polytechnic Health Denpasar, Bali Indonesia.

Miki SUEHIRO (2015.9.15) “ English for a Global Solution: a Case Study of Indonesia and Japan. ” The 62th TEFLIN International Conference 2015. Bali in Indonesia.

Miki SUEHIRO (2016.3.21-25)

“ National Exam Trial for Certified Care Workers in Japan. ” Seminar Dan Workshop - Peluang Ketenaga Kerjaan Di Jepang: Professionalism Careworkers in Japan. Bali in Indonesia.

Hirokazu TANAKA (2016.3.21-25)

“ About Specialization for Long-term Care. ” Seminar Dan Workshop - Peluang Ketenaga Kerjaan Di Jepang: Professionalism Careworkers in Japan. Bali in Indonesia.

Hirokazu TANAKA (2016.3.21-25)

“ About the Professional Competence of a Care Workers. ” Seminar Dan Workshop - Peluang Ketenaga Kerjaan Di Jepang: Professionalism Careworkers in Japan. Bali in Indonesia.

末弘美樹、細谷行輝 (2017.1.21) 「デジタル時代の介護福祉士国家試験対策用学習支援システムのご紹介」公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会、於・東京八重洲ホール

田中博一 (2017.2.28) 「地域包括ケアシステム下における在宅中重度高齢者を支える介護人材のあり方についての調査研究事業」特定非営利活動法人介護キャリア開発機構主催成果報告会、於・霞ヶ関ビルディングプラザホール

〔図書〕(計3件)

田中博一(2014)『人間と社会』法律文化社

田中博一(2014)『介護福祉のグランドデザイン』中央法規出版

田中博一(編集代表)(2017)『テキスト全5巻手引書』公益財団法人日本介護福祉士養成施設協会

〔その他〕

教材のホームページ

http://www23.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/Web0CMnext_HT/ou/demo/Login.aspx

<https://citizen.mle.cmc.osaka-u.ac.jp/citizen2016/login.aspx>

6. 研究組織

(1)研究代表者

末弘美樹(Miki, SUEHIRO)

兵庫県立大学・経済学部・教授

研究者番号: 50389095

(2)研究分担者

田中博一(Hirokazu, TANAKA)

兵庫大学・生涯福祉学部・教授

研究者番号: 20149529

(H26年度~H28まで研究分担者)

横山正子(Masako, YOKOYAMA)

神戸女子大学・健康福祉学部・教授

研究者番号: 70368562

(H25~H27年度まで研究分担者)